

# 令和6年度 学校評価シート（自己評価）

令和7年3月

文京学院大学文京幼稚園

## 1. 園の教育目標

- ・誠実（いきいき元気に遊ぶ子）
- ・勤勉（いっしょうけんめい頑張る子）
- ・仁愛（やさしく助け合う子）

## 2. 具体的な目標や計画（令和6年度重点目標）

1. 自分で考え行動できる力を育む
2. 人と関わる力を育む

## 3. 評価項目の取り組み及び達成状況

評価項目	結果	結果の理由（教員の記述より抜粋）
1 - ① 自分で興味を持ったことに積極的に取り組むことで満足感や達成感を持てるようにする。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やりたいことを子どもと一緒に考えながら作ったり真似たりして、少しずつ自分のイメージしたもので遊べるよう援助していった。</li> <li>・少し援助をしながら「できた」経験を重ねられるようにサポートを心掛けてきた。また、子ども達と対話しながら遊びを展開し、興味関心を引き出してきた。</li> <li>・遊びが見つけれない子どもに対し、遊びの提案や教材、場の設定しイメージを具現化しながらサポートをした。</li> <li>・興味を持った遊びや活動を繰り返し取り組めるように、継続していける環境を整え充実できるような時間も作っていった。</li> </ul>
1 - ② 年齢に応じて、周囲の状況に気付き、その場にふさわしい行動ができるようにする。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トラブルが起きた時には、思いを言えるように援助しながら気持ちに寄り添ったり提案したりしていった。</li> <li>・経験値や個人差を考慮しながら、年少児にも分かり易い言葉で今どうすべきかえを伝えてきた。</li> <li>・異年齢児との関わりを通し、どのように接すると良いのか考えたり気付いたり出来るような機会を作った。</li> <li>・個別で繰り返し対応していても身に付くところまでは難しい子どもがいたため今後も継続して個別対応が必要である。</li> </ul>
2 - ① 友達と関わる中で、様々な心情を経験し、人と関わる楽しさを感じられるようにする。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ではなく友達や保育者と一緒に何かをすることで楽しいと感じられるよう、保育者が率先して言葉や表情で伝えていった。</li> <li>・両クラスの友達と関わることのできる機会を設け、互いの遊びに興味を持てるような工夫をしていった。</li> <li>・遊びや生活の中でトラブルが生じた際は、保育者が答えを出すのではなく、どうすれば良かったのかを考える機会を多く作った。</li> <li>・「子ども会議」の時間を作ることで、友達の思いや良い所を知ったり、新たな発見に繋がったり出来るようにした。</li> </ul>
2 - ② 遊びの中で多様な関わりをしながら、様々な考えがあることに気付き、受け容れる気持ちを育てるようにする。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と一緒に遊ぶ中で、嬉しい思いや不快と感じた気持ちに寄り添い、相手にも同じ思いや違う思いがあることを少しずつ理解できるよう伝えていった。</li> <li>・子どもによって得意な事や詳しく知っている事がそれぞれにあるため、保育者が子ども一人ひとりの良さを遊びの中において声に出して伝え、子ども同士が知る事が出来るよう工夫した。</li> <li>・互いの思いに気が付けるよう、話し合いだけでなく、共同画などの一緒に取り組む共同活動も取り入れた。</li> <li>・自分と意見が違っていても、怒ったり離れたりするのではなく、そういう意見があっても良いことや、互いに折り合いを付けられるように仲介した。</li> </ul>
2 - ③ 園生活をする上で、そこに関わる様々な立場の人がいることを知り、接し方に気付けるようにする。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分達がいろいろな人に見守られていることに気付き、その人と関わると嬉しい気持ちや感謝の気持ちが持てるよう手本となるよう心掛けた。</li> <li>・自分自身（保育者）が挨拶をすることによって、子ども達が何をしている人なのか興味関心を持たせることができた。またきっかけとなり、感謝の気持ちが芽生えるきっかけにもなった。</li> <li>・色々な立場の方が子ども達とどのような関係や関わりがあるかを折に触れ知らせ、愛情を掛けてもらっていることや自分達が出来るとは何かを一緒に考える時間を設けた。</li> </ul>
文京学院100周年・幼稚園開園70周年を知り、皆で祝う。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども達にとって分かり易い言葉で周年とは何か伝え、身近な事として祝える気持ちを持てるようにした。</li> <li>・子ども達が理解しやすいよう、家族に例えて話をする工夫を行った。</li> <li>・自分達と同じように学院や幼稚園にも誕生日があることを伝え、長い歴史に子どもなりに触れられるようにした。</li> </ul>

#### 4. 教員自己評価結果及び本園の今後の課題

	項目	結果	評価結果及び課題（教員の記述より抜粋）
1	保育内容の工夫	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動遊びに直結する活動だけでなく、表現遊びの中でも「跳ぶ」「くぐる」「バランスを取る」など、体の動かし方に配慮した取り組みを行った。</li> <li>砂場遊びを裸足で行ったり、水をダイナミックに使った遊びを提案したり、全身を使って遊べる活動を工夫した。</li> <li>楽しみながら体を動かし心地良さを味わえるようにした。また、肯定的な言葉掛けを行い、自信に繋がれるようにした。</li> <li>運動遊びでは苦手とする子どもに対し、その遊びの楽しさが伝わる方法を考えていく必要があった。</li> <li>「子ども会議」の時間において、クラス全体で話し合いながら、友達の意見にも耳を傾け、多様な考えに触れられるようにした。</li> </ul>
2	環境構成の工夫	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>栽培活動では、子ども達自身の手でプランターを運んだり、土づくりをしたりするなど主体的に取り組める環境を整えていった。</li> <li>子ども達の興味関心に対して迅速に対応できるように心掛けたり、自ら目標を持ち取り組める環境を整えた。</li> <li>クラス全体で取り組む集団遊びを室内外共に楽しめるよう、色々な遊びを繰り返し行った。</li> <li>その時期の子どもの遊びへの興味関心や発達に合わせ、室内の玩具の分量や種類、入れ替えなど配慮してきた。</li> <li>生活習慣については、子どもがやろうとする気持ちや小さな成長を見逃さず、また周りの子どもへの刺激にもなるようあえて周知する声掛けを心掛けてきた。</li> <li>特に年少児は個人差（経験差）も大きいため、「知る」ということから個々に合わせて生活習慣が身に付くよう取り組んでいった。</li> </ul>
3	幼児への対応 (幼児の理解)	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>常に笑顔で接し、温かい雰囲気作りを心掛けた。</li> <li>どのような様子も受け容れ寄り添うよう努めた。</li> <li>子どもの様子や接し方を学年の教員と共有し、共に配慮の仕方を考えていった。</li> <li>一人ひとりの性格を理解した上で、保育者が自分を受け容れてくれる存在や場所となるよう声掛けや環境作りを心掛けた。</li> <li>自分の思いを素直に伝えることが難しい子どもや、強引な態度を取ってしまう子どもに対し、思いを聞きながら、相手への伝え方を一緒に考えるサポートを行い、子どもが自分自身で気持ちの整理が付けられるように接してきた。</li> </ul>
4	保護者への対応	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者の気持ちを汲み取りながらも、子どもにとってはどうすることが適切であるのかについても伝えるようにしてきた。</li> <li>子どもの成長や良い所を伝えたり、話し易い雰囲気を作ったりすることも心掛けた。また保護者への声掛けが偏らない心配りも行った。</li> <li>就労する母親が多くなり預かり保育を長時間利用する家庭も増加し、会話をする機会が持てない実態もあった。</li> <li>降園時やゆとりの時間に教員から話し掛けられることに、他の保護者の視線を気にして抵抗感を抱くなど、多様な保護者がいるため対応を考えていく必要がある。</li> </ul>
5	研修と研究	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>園内研究では、本園の保育の特色の1つでもある「栽培活動」について保育ドキュメンテーションを活用し、あらためて捉えなおしを全教員で行い、更なる活動の取り組みに活かしていく。</li> <li>二園合同研修（併設園であるふじみ野幼稚園との）において、幼児の「包括的性教育」の研修を受け「性器や生殖だけでなく、自分の心と体をよく知り、自分を大切にすると共に、他者のことも大切にする」という、これからの教育に必要なことについて学びを深めたと共に、更に継続して学ぶ意識が全教員に芽生えた。</li> </ul>
6	安全管理	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>話すだけでなく、実際に園内を子どもと一緒に確認し、安全への理解を子どもが納得して出来るよう工夫した。</li> <li>規制を前面にかけるのではなく、子どもの気持ちや意欲も大事にししながら、自分自身で子どもが気を付けて行動できるよう指導をしてきた。</li> <li>保育者が一方的に指導するのではなく、子ども自身がどうしたら安全に、楽しく生活できるのか意識できるよう、また共に生活する仲間同士で気を付けていけるよう考えたり、話し合ったりする機会を都度に取り入れてきた。</li> </ul>
7	職場環境 学年チームの 関わり	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在多様な子どもがおり、その対応に時間を作る必要がある。園務とのバランスを考え、本園の良さを残しつつ、業務内容の見直しも必要である。</li> <li>学年間または行事や園務で一緒に教員が組む場合、本園での勤務経験やキャリアにも差があるが、その差を平等に割り振るのではなく、適材適所で分担し相互補完し合う意識作りをしていく必要がある。</li> </ul>

○結果について

A	十分達成されている。
B	達成されている。
C	取り組まれているが、成果が十分でない。
D	取り組みが不十分である。

## 5. 具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 保護者アンケートの結果と、教員各個人の自己評価から、おおむね目標は達成できていると考えられる。「重点目標」を意識し、特に「クラスや学年の子どもが興味を持ったこと」には遊びを継続できるように教員各人が環境や時間の使い方などを意識し、生活してきたことが結果としても現れていた。ただし、個人の特性により、個別の配慮が必要な子どももいるため、今後も本園育児カウンセラー（増田先生）や教育センター等発達の専門家にもサポートをいただきながら対応をしていく必要がある。</li> <li>● 重点目標の「自分で考え行動できる力を育む」「人と関わる力を育む」では、「人の気持ちに気付く」そして「その中で自分はどうすべきかを自然に考えられるような機会を意識して、子どもに言葉をかけてきた積み重ねが感じられた。また、「人と関わる力」では、「園生活に関わる様々な立場の人がいる」ことを理解できることを評価項目に初めて上げたが、「10の姿」の「社会生活との関わり」を強く意識することができたと思う。</li> <li>● 今年度は文京学院 100 周年、文京幼稚園 70 周年の年であったが、園児の年齢に合わせて理解できるよう、折に触れて伝えてきた。70 周年では卒園生の邦楽演奏家を中心とした邦楽コンサートを開催することができ、「お祝い」というだけでなく、園児に取って先輩の活躍を知る貴重な機会とすることができた。</li> <li>● 「保育ドキュメンテーション」の研修では、本園の特色の一つでもある「栽培活動」を取り上げ、保育理解を深めることができた。また、二園研修や、教員それぞれの学びたい内容を選んで研修会に参加、リモート研修を受ける、など多くの学びを得ることができていた。</li> <li>● 「保護者への対応」については、どの教員もコミュニケーションを意識してきたが、就労する母親が多くなり、登降園時に顔を合わすことができないことが続く家庭も増えている。コミュニケーションの取り方に課題を感じている教員もいる。</li> <li>● 職場環境については、継続して取り組んでいる。法人とも相談し、週 1 日は「職員室の定時刻消灯」を実施してきた。このことから週の中で計画的に仕事をするを意識し、改善につながってきた。さらに幼稚園の業務において、本園の伝統や保育の中で大切にしてきたことは守りながら、業務の進め方等で改善ができることは精査し、教員が働きやすい環境を作り出していくことを具体的に始めている。これは、令和 7 年度も引き続き、行っていきたい。</li> </ul>

## 6. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
① 園児の心も体も豊かに育てるためにさらに遊びを追求し、保育活動も工夫する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度も、どの学年もそれぞれ遊びの充実を考え、丁寧に保育を行ってきた。子ども達が自分で感じられるよう、人との関わりで必要なことを自然と学べるよう、教員側から教えるのではなく、教員が日々の生活の中で関わり方を意識することにより、大きな効果を生み出している。今後も子どもの育ちにプラスになるよう、重点目標も考えていきたい。</li> <li>・室内の遊びは充実しているが、「園庭での遊びや活動」がさらに豊かになっていくよう、意識して考えていきたい。</li> </ul>
② 「すくわくプログラム」(東京都推奨)を保育の中に取り入れる。(上記①にも関連)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文京学院設置の幼稚園としても、「グローバル」の意識を持つことを少しずつ高められるように考えていく。</li> <li>その一環として、東京都の「すくわくプログラム」にエントリーし、グローバルをテーマとして、「園児の探究活動」を進められるようにしていく。(園の特色の一つにもなるように)</li> </ul>
③ 幼稚園ならではの魅力が外部の方に伝わるように様々な方法を試行する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これから入園を検討する家庭に対して、文京幼稚園ならではの魅力が少しでも伝わるように、現保護者の声も聞きながら、具体的に発信していく。</li> <li>幼稚園だからこそその魅力が最大限に伝わるようにしていく。(継続)</li> </ul>
④ 預かり保育を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和 7 年度より、年間実施日、実施時間(18 時まで)と、運用を拡大していく。保護者の方の利便性だけでなく、園児にとっても「学び(学習という意味でなく)を続けられる場」となるよう具体的に方法を考えていく。</li> </ul>
⑤ 職場環境を見直し、働きやすい環境を作っていく	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和 7 年度 4 月より、本園では「変形労働制」を導入することとなった。1 年間の「変形カレンダー」をあらかじめ作成し、なるべくその時間の中で勤務をしていく。</li> <li>これに並行して、業務の見直しも教員の意見を聞きながら、改善に繋がるよう取り組んでいく。教育方針は守り、良き伝統は失わないようバランスを取って行っていく必要がある。</li> <li>・教員同士が互いを尊重し、不足していることも補い合える職場を作っていくことが必要である。</li> </ul>